

# 進路通信

5月26日

## 学部・学問情報

### ◆生活科学…快適な人間の“生活”をトータルに追求

#### 【学問の内容】

生活科学は、家庭生活の中の人間と人間(親子, 兄弟, 夫婦など)の関係や、衣食住を含めた生活環境が人間に与える影響などを研究し、より快適な人間生活の創造をめざします。従来は“家政学”という名称でしたが、“家”だけでなく地域や社会における人間生活の快適性の追求という広がりが出てきたことから、“生活科学”と呼ばれています。実際に学ぶ科目には、食物学、被服学、住居学、児童学といった基本的な科目のほかに、生活経営学、家族関係論、家庭看護学、被服材料学などの科目があります。例えば、「生活経営学」では、家庭を企業のような一つの経営母体ととらえて、そこでのお金の流れを考えていきます。また「家族関係論」では、古代の家族の形態を戸籍制度から分析したり、現代の家族の問題を追究したりします。生活科学では、普段から常に日常生活の問題点に目を向けて、その解決方法を考えいきます。例えば、日々の生活に伴って出されるゴミや生活排水が環境を汚染している問題を取り上げ、地域や社会における快適な生活とはなにかを考え、生活と人間を取り巻く自然環境との調和をどう図っていくかを追究していきます。

#### 【卒業後の進路】

一般企業に就職するほか、消費生活アドバイザーや衣料管理士などの資格を生かした、専門的な職業に進む場合が多い。生活に関連のある流通、出版、情報など、学んだことを生かせる方面にも多く進んでいる。大学院で研究を続けたり、中学校、高校の教員になる人もいる。

### ◆住居学…設計から計画まで実習はさまざま

#### 【学問の内容】

住居学は、工学系統の建築学と兄弟のような関係にあります。建築学が“建物”というハード面とすれば、住居学は“生活スタイルの設計”というソフト面の担当です。住居学の研究成果が建築学に反映されて、よりよい住宅や宅地造りにつながっていくのです。

住居学では、生活のなかで効率的に行動するためには、どのような室内が必要なのかを考えることからスタートします。例えば、料理と食事という二つの行動から、ダイニングキッチンという形が生まれています。このようにさまざまな住み方の問題をとらえ、分析・観察しながら、よりよい生活のデザイン・住環境を提案していきます。現代社会では、マンションなど集合住宅での共同管理のあり方や、隣近所と気持ちよく暮らすための生活ルールのあるあり方、あるいは高齢化社会に向けての住居のあり方など、住居学が取り組むべき問題はたくさんあります。経済大国といわれていても、日本の住環境の水準はそれほど高くありません。住居のなかの問題をはじめ、地域も含めたより広い生活の場を研究対象とすることで、住居学は国民全体の住生活の発展に寄与することをめざしています。

#### 【卒業後の進路】

卒業と同時に2級建築士の受験資格が取得でき、また卒業後2年以上の実務経験を積めば1級建築士の受験資格とインテリアプランナーの登録資格が得られるケースもある。それらの資格を生かして、住宅・家具メーカー、設計事務所などに就職するケースが多い。また大学院に進学して、研究を続ける人もいる。